

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 1年生（30期）

手話言語学 市田泰弘

授業回数 22回（2年次に8回実施）

授業目的 進め方	手話言語学について学ぶ。 日本手話と日本語の対照分析を通して、二言語間の翻訳に際して理論的な説明ができるようになる。 第二言語としての日本手話の「意識的学習」にも役立つ実践的な内容を中心とする。
-------------	---

回数	授業内容（予定）
1	手話言語の言語的要素：とりわけ非手指要素について
2	日本手話の文法①：非手指要素①—頭の動きについて
3	日本手話の文法②：非手指要素②—顎の位置について
4	日本手話の文法③：非手指標識と手指標識の関係
5	日本手話の文法④：非手指要素③—目のふるまいについて
6	日本手話の文法⑤：「経験する身体」による「経験の語り」①—非能格自動詞
7	日本手話の文法⑥：「経験する身体」による「経験の語り」②—観察構文、発見構文
8	日本手話の文法⑦：「経験する身体」と「非現実の語り」—「否定」をめぐって
9	日本手話の文法⑧：「経験する身体」による「知覚」そのものへの言及①—知覚構文
10	日本手話の文法⑨：「経験する身体」による「知覚」そのものへの言及②—発見構文
11	日本手話の文法⑩：「発見」の文法化とその拡張①—責任性
12	日本手話の文法⑪：「発見」の文法化とその拡張②—被害性と恩恵性
13	日本手話の文法⑫：非手指要素④—口型について
14	日本手話の文法⑬：動詞連続構文と節連鎖構文—「使役」をめぐって
15	日本手話の文法⑭：節連鎖構文—「譲歩」をめぐって
16	日本手話の文法⑮：再帰態と受動態をめぐって
17	日本手話の文法⑯：いわゆる「空間利用」について
18	日本手話の文法⑰：いわゆる「ロールシフト」について
19	CL構文：その分類と機能
20	日本手話の音韻①：手型について
21	日本手話の音韻②：運動と位置について
22	日本手話の音韻③：音変化について

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 2年生（29期）

手話言語学 市田泰弘

授業回数 8回（1年次に22回実施）

授業目的 進め方	1年次で学んだ手話言語学の知識をもとに、学生自身が感じた日本語との違いについて、発表とディスカッションを行い、二言語間の違いを言語学的に説明することを試みる。
-------------	---

回数	授業内容（予定）
23	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション①
24	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション②
25	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション③
26	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション④
27	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション⑤
28	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション⑥
29	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション⑦
30	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション⑧

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 1年生（30期）

聴覚障害者の社会 市田泰弘

授業回数 10回

授業目的 進め方	聴覚障害者の社会の基本知識を習得する。 手話学習の入門書や学術誌掲載の概説論文をもとに、学生自身が要点をまとめ発表する形で進める。 最後の2回は、学生自身の体験をもとに発表およびディスカッションを行う。
-------------	---

回数	授業内容（予定）
1	手話についての基礎知識①：「手話は言語である」とはどうか
2	手話についての基礎知識②：「手話の音韻と文法」
3	手話の習得：「ネイティブサイナーをめぐる」
4	ろう者の社会①：「コアメンバーとしてのネイティブサイナー」
5	ろう者の社会②：「周辺的なメンバーとしての多様な聴覚障害者」
6	ろう者の文化と国際交流
7	ろう者の歴史と教育
8	ろう者をめぐる社会言語学的状況
9	ろう者の言語と文化の実像①：発表とディスカッション
10	ろう者の言語と文化の実像②：発表とディスカッション

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 1年生（30期）

講義名「聴覚障害者の社会」 教官名：木村晴美

授業回数 5回

授業目的	ろう文化について多角的に学ぶ 課題としてビデオレポート（手話）あり
------	--------------------------------------

回数	授業内容（予定）
1	文化人類学における定義、生活様式、行動様式
2	KL・ELK・DELK ビデオレポートをもとにディスカッション
3	医学的視点・文化的視点、Deafhood ビデオレポートをもとにディスカッション
4	異文化理解への5つのステップ ビデオレポートをもとにディスカッション
5	自文化中心・異文化理解 ビデオレポートをもとにディスカッション・まとめ

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 1年生（30期）

講義名 聴覚障害者の社会 講師名 各分野ごとのゲスト講師

授業回数 5回（10コマ）

回数	授業内容（予定）
1	聴覚障害者の社会（精神障害）
2	聴覚障害者の社会（ろう重複障害）
3	聴覚障害者の社会（盲ろう者）
4	聴覚障害者の社会（ケースワーク）
5	聴覚障害者の社会（司法）

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 1-2年生合同（29期・30期）

通訳理論 近藤正臣

授業回数 8回

授業目的 進め方	通訳理論について学ぶ
-------------	------------

回数	授業内容（予定）
1	はじめに：音声通訳の理論と実際
2	多言語を使用する国際会議の例
3	通訳者の倫理とは？
4	通訳モデル①：セレスコヴィッチ「通訳の3つのプロセス」
5	通訳モデル②：Helga Kirchhof「three-party two-language model」
6	通訳モデル③：近藤モデル
7	異文化間コミュニケーションとしての通訳作業
8	まとめ

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 1年生（30期）

講義名「手話通訳論」 講師名：宮澤典子

授業回数 15回

授業目的 進め方	手話通訳技能認定試験学科試験対策 手話通訳のあり方を学ぶ
-------------	---------------------------------

回数	授業内容（予定）
1	手話通訳技能認定試験、手話検定試験等の説明、今後の取り組み方の説明
2	手話通訳のあり方（手話通訳の役割）
3	手話通訳のあり方（通訳理論）
4	手話通訳のあり方（通訳倫理）
5	手話通訳のあり方（言語・文化）
6	手話通訳のあり方（コミュニケーション）
7	手話通訳のあり方（コミュニケーション）
8	手話通訳のあり方（手話通訳の実際）
9	手話通訳者の健康
10	手話通訳の実際（通訳派遣）
11	手話通訳の実際（通訳派遣）
12	事例検討（講演場面）
13	事例検討（会議場面）
14	事例検討（面談場面）
15	手話通訳者の倫理

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 2年生（29期）

講義名「手話通訳論」 講師名：宮澤典子

授業回数 11回

授業目的	模擬通訳や手話通訳実習の準備の仕方を学ぶ 模擬通訳や手話通訳実習における事例検討をとおして手話通訳論を学ぶ
------	--

回数	授業内容（予定）
1	夏期手話通訳実習の準備
2	夏期手話通訳実習における事例検討
3	夏期手話通訳実習のまとめ
4	冬期手話通訳実習の準備
5	冬期手話通訳実習における事例検討
6	冬期手話通訳実習における事例検討
7	冬期手話通訳実習における事例検討
8	冬期手話通訳実習における事例検討
9	冬期手話通訳実習のまとめ I
10	冬期手話通訳実習のまとめ II
11	手話通訳論 まとめ



平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 2年生（29期）

手話通訳論 卒業生

授業回数 4回

授業目的 進め方	手話通訳論の一環で、卒業生をゲストとして招いて、さまざまな形態の手話通訳の実情について学ぶ。
-------------	--

回数	授業内容（予定）
1	聴覚障害者情報提供施設職員として
2	社会福祉協議会職員として
3	フリー通訳として
4	民間企業社員として

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 1年生（30期）

講義名 聴覚障害者の教育 講師名 各分野ごとのゲスト講師

授業回数 5回（10コマ）

回数	授業内容（予定）
1	聴覚障害児の教育（概論）
2	聴覚障害児の教育（概論）
3	バイリンガル教育（概論）
4	バイリンガル教育（実践）
5	日本における聴覚障害児教育

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 1年生（30期）

聴覚障害者のリハビリテーション 北 義子

授業回数 8回

授業目的 進め方	手話通訳に必要な聴覚障害のリハビリテーションに関する基本的な知識を学ぶ。
-------------	--------------------------------------

回数	授業内容（予定）
1	疑似難聴体験
2	聴覚の意義、難聴の影響
3	聴力検査をしてみよう、耳の構造と聞こえのしくみ
4	難聴の種類
5	難聴の原因
6	補聴器と人工内耳
7	医学の新しい流れ
8	超早期からのリハビリテーション

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 1年生（30期）

講義名「聴覚障害者の福祉」 教官名：木村晴美

授業回数 10回

授業目的	<p>イマージョンプログラムのひとつとして実施する 聴覚障害者の福祉に対する理解を深める 自分で調べたことをまとめ、手話で報告する（ろう者にわかりやすいプレゼンができるようにする） ろう者にわかりやすいプレゼン資料（パワーポイント等）を作る</p>
------	--

回数	授業内容（予定）
1	<p>「ろう者のコミュニケーション」 「難聴者のコミュニケーション」 「中途失聴者のコミュニケーション」 「盲ろう者のコミュニケーション」</p>
2	<p>「ろう重複（障害者）のコミュニケーション」 「補聴器の仕組み」 「人工内耳の仕組み」 「ギャローデット大学と筑波技術大学」</p>
3	<p>「新生児聴覚スクリーニング検査」 「身体障害程度等級（聴覚障害にかかわる部分）」 「聴覚障害学生への支援」 「聴覚障害者特別養護老人ホーム」</p>
4	<p>「道路交通法改正（運転免許取得運動）」 「民法改正（第11条）準禁治産者」 「民法改正（第969条）公正証書遺言」 「国連の障害者権利条約」</p>
5	<p>「障害者差別解消法（合理的配慮）」 「電話リレーサービス」 「障害者雇用率制度（法定雇用率と罰則）」 「蛇の寿司事件」</p>
6	<p>「ろう者の参政権 ～選挙権～ 政見放送等」 「ろう者の参政権 ～被選挙権～ 議員としての活動等」 「デフリンピックとパラリンピック」 「障害を理由とする差別条項撤廃（欠格条項の撤廃）」</p>

7	「障害者手帳を有することで受けられるさまざまな福祉サービス」 「3. 3 声明（京都府ろう学校）」 「視聴覚障害者向け放送の普及促進」 「標識、耳の日、手話言語デー」
8	「意思疎通支援事業」 「日常生活用具、補装具、障害者基礎年金」 「手話言語法」 「災害時における福祉支援体制の整備等」
9	復習 上記タイトルのうち1～2タイトル、修正のうえ、再発表
10	復習 上記タイトルのうち1～2タイトル、修正のうえ、再発表

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 2年生（29期）

聴覚障害者の福祉 全日本ろうあ連盟

授業回数 5回

授業目的 進め方	ろうあ団体から講師を招き、ろうあ運動の過去・現在・未来について学ぶ。
-------------	------------------------------------

回数	授業内容（予定）
1	ろうあ団体の歴史と組織
2	ろうあ運動のこれまで①：民法改正、運転免許
3	ろうあ運動のこれまで②：手話通訳制度化、手話言語条例、手話言語法
4	差別問題への対応：手話通訳派遣拒否問題等
5	東日本大震災から学んだこと、旧優生保護法下の強制不妊手術等問題ほか

平成31年度 国立障害者リハビリテーションセンター学院 手話通訳学科  
シラバス（授業計画） 2年生（29期）聴覚障害者のケースワーク 原 順子・日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会  
授業回数 5回

授業目的 進め方	聴覚障害者のソーシャルワークについて、その理論と実際を学ぶ。
-------------	--------------------------------

回数	授業内容（予定）
1	聴覚障害ソーシャルワークの枠組み
2	聴覚障害ソーシャルワーカーのコンピテンス
3	ワークショップ：クライアントの理解、自己覚知、面接技法など
4	文化モデルアプローチの重要性
5	聴覚障害ソーシャルワークの実際（日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会）